

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ



題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 鈴木理之
 幹事 三好親
 会報・雑誌委員長 加藤重雄

No.29

ロータリーを祝おう 100年の歩み

CELEBRATE ROTARY

100 Years 2004~2005年度 RI会長 グレンE.エステス・シニア

きょうの例会
 第1081回 平成17年3月29日(火)

友愛の日

先週の記録
 第1080回 平成17年3月22日(火) 雨

◆“我等の生業”

◆出席報告

会員	64(55)名	出席	40名
出席率	72.73 %		
前々回	3月8日(修正出席率)	87.72%	

◆ビジター紹介

2名

◆ご夫人紹介

足立まゆみ様・池森 伸江様・松居 敬子様
 成田真佐子様・鈴木 僂子様・谷口 郷子様

三好幹事報告

1. 本日例会終了後、家族委員会企画の第2回サークルを開催致しますので参加者の方は牡丹の間にお集まり下さい。

鈴木(理)会長挨拶

お二人のビジターとサークルに参加して頂くご夫人の方々をお迎えしての例会となりました。

どうぞごゆっくりお過ごし頂きたいと思います。

そして本日の企画では伊藤君と水谷君、ご指導の程宜しくお願い致します。

昔から天災は忘れた頃にやってくると思いますが、被災地復興の中、九州地方に大きな地震が発生し過去の経験から迅速に救援活動がされているようで一安心です。

被災されました方々には心よりお見舞い申し上げます。

さて愛知万博が開幕直前となりましたが、そもそもこの企画は18年前当時鈴木礼二愛知県知事の時に瀬戸南部を中心に「化学と産業」をテーマとして持ち上がりましたが海上の森に大鷹の巣が見つかったことから自然破壊反対運動が広がり「自然の叡智」愛・地球博

となったそうです。小さな市民運動が大きな波となって自然保護が守られた良い例と言えるでしょう。

21世紀初の国際博覧会、愛知万博が大成功となるよう祈念致しております。

◆卓話

“知っていてほしい文字の話”

会員 伊藤 健文君

私達が使っている文字が現在に至るまでを簡単にお話したいと思います。本来日本には「大和ことば」と言われる独自のことばは存在していましたが、文字は有りませんでした。ご存知のように中国から伝わってきた漢字が文字の始まりだと言われています。中国の歴史は古く漢字の元祖は象形文字から生まれた篆書(てんしよ)と言われ、書作品に押す雅印や家庭にある実印などにかかっている文字のことで、篆書で書いたものを印材に刻むので印を彫ることを篆刻(てんこく)と称する所以なのです。その後、隸書が出来、現在店舗や会社名の看板などの文字に名残があります。それから更に後、楷書や行書が出来ますが、草書はそれ以前に生まれているのです。一般的には行書のつづき文字が草書だと思われていますが間違いなのです。これらの漢字が渡来して日本人も初めは漢文で字を書くようになりましたが奈良、平安時代になると日本独自の万葉がな、変体がな、平がな、片かななどの仮名文字が誕生します。平安時代になると完成され仮名文字で書くことを「女手」、漢字で書くことを「男手」など言うようになり宮中の女官から生まれたと言われる仮名の美しさは女性のみならず男性をも魅了して日本の文化に定着しました。しかし昭和23年義務教育が実施された頃から仮名は万葉がな、変体がな、漢字では篆書、隸書、草書がパツパツと姿を消してしまいました。行書も戦後、学校教育の中では正規の指導は無く、正しいくずし方を知らない人が多くなりました。

昨今、パソコンの全盛期ですがパソコンは打つ事で書く事とは違います。日本人の書写能力の低下に一抹の不安を感じているこの頃です。

“私と日本画”

会員 水谷 祥督君

日本画との出会いは父である先代の住職が先生に寺まで来て頂き絵を習っていた事が始まりです。

東京の駒沢大学仏教学部に入學をした時は寺を継ぐ為に一生懸命、勉学に励み頑張っていたと思いましたが、昭和43年頃は学生運動の盛んな時代で紛争が激しく、一年生から三年生まで無駄な時間が過ぎてしまい、勉学よりも遊びの方へ行ってしまいました。1年生の時、仏教学部の学生は1年間寮生活をしなければいけなく、2年の時、初めてのアパート生活で開放感もあり勉学より遊びに夢中になりました。しかしだんだんと友達も自分の寺に帰り、私もアパートに一人でいてもつまらなくなり、寺に帰った時、先代がお寺で絵を画いていたのを見て、私も筆を取ってみましたら日本画は筆の使い方が難しく、線のおもみ、にじ

みの大切さを痛切に感じ、寺の修行から帰って先代が亡くなるまで八年間を日本画の小寺礼三先生に習いました。小寺先生はやまと絵が専門の方で最近の作品は扇面法華経下絵図また普賢十羅刹女・稚児文殊菩薩などがあります。名古屋市芸術特賞・社会教育功労者文部大臣賞を受賞し、92歳の今も元気にやまと絵を画かれています。私の寺、大雄院にも先代の縁で薬師堂に十二神将の壁画と天井画を画いて頂き、本堂には観音経三十三化身像画も有り、水墨淡彩・水墨画など500点ちかく作品が有ります。お寺には小寺先生・先代・私の絵が少し飾ってあります。今は忙しくて画けませんがお寺を引退したら、先生のように健康で楽しく日本画を画きたいと思っています。

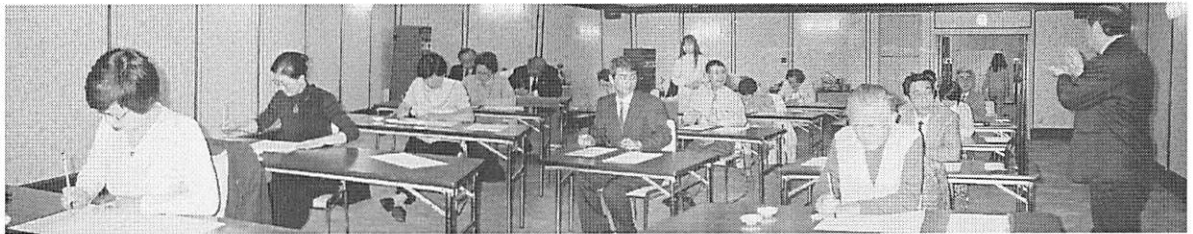
私が習い始めた時・最近の画いた絵を見て頂き、お話しを終わらせていただきます。

ご夫人参加サークル

牡丹の間 1:45~



家族委員会主催の第2回サークルは会員9名、ご夫人8名が参加し、伊藤健文君にお手本書きして頂いた住所・氏名をもとに書道のご指導と、“思いつくまま自然に、心で描く”との助言とご指導で水谷祥督君に墨絵を教えて頂きました。



筆を持つのは?年振りという方ばかりでしたがお互いの書や絵について寸評し合い、次回の開催を楽しみに待たれる声も上がりました。

ニコボックス

松居 敬二

家族委員会に多数の会員及び夫人に参加いただきまして有難うございます。

伊藤君、水谷君よろしく申し上げます。

水野 民也

息子と来ました。

浅井 誠寿

おこしもの醤油の焦げる香りに春を感じます。

おこしもの 醬焦ぐ香に 尾州春

小杉 啓彰

伊藤さん、水谷さん、本日はよろしく申し上げます。

鈴木 理之

サークルに参加のご夫人の方々ようこそおい出下さいました。

伊藤君、水谷君、ご指導よろしく申し上げます。

油田 弘佑・足立 一郎

萩原喜代子・堀江 宏輝

池森 由幸・伊藤 健文

伊豫田 博明・加藤 重雄

菊池 昭元・小林 明

小山 雅弘・松永 正史

宮本 光久・宮尾 紘司

三好 親・水谷 祥督

西川 豊長・奥本 文也

佐久間 良治・竹内 眞三

舎人 経昭・魚津 常義

山本 英次・吉田 節美

ご夫人をお迎えして

合計

39,000円

次回例会

平成17年4月5日(火)

講演

“城山・覚王山をめぐる古道”

白壁アカデミア古道担当 池田 誠一様 (紹介 久野君)